

# 風水害に遭遇 そのときどうする？

安全に避難  
するまでの  
7ヶ条

風水害に備え日頃から万全な対策をし、万が一、風水害に遭遇した場合、心を落ち着かせすみやかに行動するようにしましょう。



## 1 速やかな行動

ラジオ、テレビ、防災広報などを注意深く聞き、避難勧告が出たら速やかに行動しましょう。



## 2 水位の確認

洪水の場合、歩ける深さは股下までが限度。水深が腰までである場合は無理をせず、高所で救助を待つようにしましょう。



## 3 足元に注意

飛来物や水底の危険物でケガをしないためにも、素足やすべりやすい長靴は禁物。ひもでしめられる運動靴を履き、長い棒などを杖がわりにして安全を確認しながら移動しましょう。



## 4 子供から目を離さない

はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難します。特に子供からは目を離さないようにします。



## 5 壊れそうなよう壁に近寄らない

外見は安全そうに見えても、よう壁は水を含み危険です。避難するときは、よう壁付近に近づかないようにしましょう。



## 6 落下物に注意

瓦や看板の落下や倒壊に注意しながら、避難しましょう。



## 7 雷の被害にも注意

雷が遠ざかるまで待機し、平地では低い姿勢で、散らばって避難します。また、避雷針のない家では壁や柱に寄りかからず、電灯線、電話線、アンテナ線から1m以上離れましょう。



## 風の強さと被害想定

風速10m/s 以上～15m/s 未満 (やや強い風)  
看板やトタン板が飛び始める。



風速15m/s 以上～20m/s 未満 (強い風)  
風に向かって歩けない。



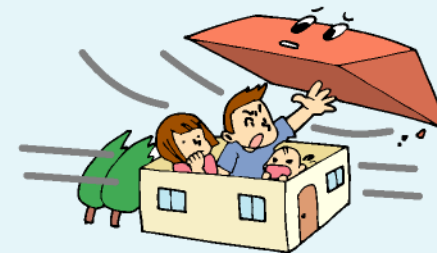
風速20m/s 以上～25m/s 未満 (非常に強い風)  
しっかりと体を確保しないと転倒する。



風速25m/s 以上～30m/s 未満 (非常に強い風)  
立ってられず、ブロック塀が壊れる。



風速30m/s 以上 (猛烈な風)  
屋根が飛び、家が倒れることもある。



## 1時間の雨量と降り方

10mm/h 以上～20mm/h 未満 (やや強い雨)  
ザーザーと降り、雨音で話し声がよく聞こえない。



20mm/h 以上～30mm/h 未満 (強い雨)  
どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれる。



30mm/h 以上～50mm/h 未満 (激しい雨)  
バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。



50mm/h 以上～80mm/h 未満 (非常に激しい雨)  
滝のように降り、土石流が起こりやすい。車の運転は危険。



80mm/h 以上 (猛烈な雨)  
雨による大規模な災害発生危険があり、厳重な警戒が必要。

